



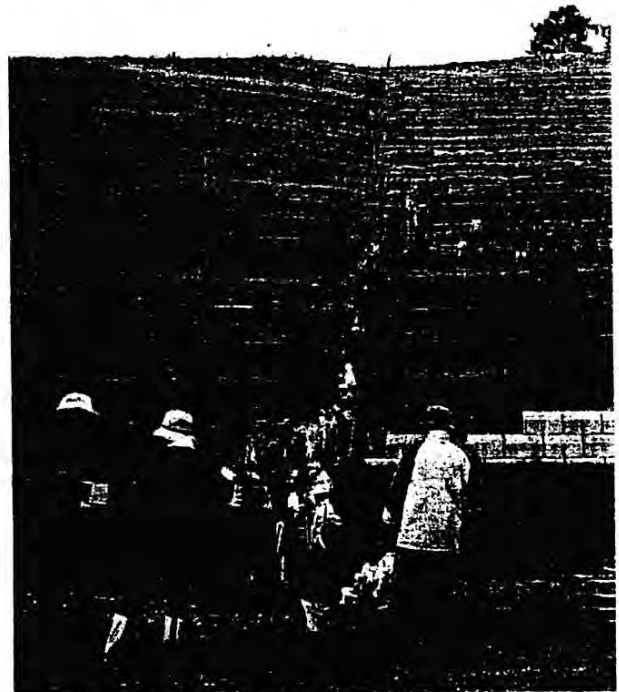
財団法人ユニバーサル財団より助成金40万円

活動初年度の財政は、特に用具・装備に初期投資的な支出を余儀なくされます。お陰様でこのユニバーサル財団と先の国土緑化推進機構よりの助成金により、初年度財政の健全化の見通しがつきました。気持ちよく活動に励んで下さい。

有珠山噴火災害復興緑化事業 11名参加

10月26日、バスで災害地を見学、グニャグニャになった国道跡に改めて災害の凄さを感じました。宿の洞爺温泉ホテルでは名物の花火を楽しみました。

翌27日、100人程の虻田町町民植樹祭に参加。カミネッコンの開発者、東（ひがし）先生の指導でヤナギ、カツラ、ハンノキのカミネッコン約300個を護岸法面にバケツリレーの要領で運び上げ、設置植栽しました。来年、結果を見にゆきたい。帰路の中山峠では雪になりました（酒井）。



11月定例幹事会の報告

① 冬季活動

テーマスクラブの課題として日本における森林レンジャーのあり方を共に研究することになりました。第一回目を勉強会の1回目と共催します。一般の方々にも参加をよびかけています。

11月29日（金）13時～かでの・27 940室 定員40人

「森を守るということ、（森林レンジャーに関連して）」 講師；酒井和彦さん
（3ページ参照）

「ボランティア活動を考える」 講師；三浦裕さん

2回目 「森林レンジャー関連」 講師；後報

「森林施業と関連用語について」 講師；加治豊実さん

12月は忘年会もやりますし、何かと忙しいので1月の開催、詳細後報

② 忘年会 参加予定20名（2ページ目下段のとおり）

③ 学校林づくりへの支援事業

湊代表幹事が講師をしている札幌工科専門学校の林学授業として10月3日に有明山林での演習をしましたが、そのご縁が発展し、当別町の有志が当校の学校林に面積約10畝の所有山林を提供することを了承しましたので、学校林として整備し経営することを進めることになりました。（4ページ参照）

澄川作業報告

11月15(金)26名、16(土)22名、澄川に入りました。キノコ栽培活動ではコマ菌ホダ木76本、オガ菌ホダ木92本を処理し、仮伏せしました。除伐組は散開し、手ノコレベルの細いのを主に倒しました。薄く積もった雪の上での作業で、気温も低くかなりハードに動いても汗をかきませんでした。残り2回の入林作業は天候に恵まれても、しっかり防寒支度をしてきて下さい。

澄川除伐材活用のキノコ作り年間作業概要

来年の仕事の大まかな段取りです。

	11~12月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
平成15年	原木伐倒	玉切、運搬		本伏せ	天地返し	天地返し	天地返し	越冬作業
平成16年	植菌、仮伏	本伏せ	天地返し	天地返し	天地返し	天地返し	発芽・収穫	

ホダ木：φ50cm以上、L900cm

ミズナラ(しいたけ)

シラカバ、サクラ、クリ(なめこ)

シラカバ、ハンノキ(ひらたけ)

年賀状の進行

発注オプションが12名、1,000枚をこえました。酒井さんと西野さんのご尽力により、パソコンで画像処理してプリンターでカラー印刷する手作り方法で作りました。



研修会 & 忘年会のお知らせ

日 時：12月11日 10時地下鉄真駒内駅出発

研修テーマ：高齢人工林の複層林化施業試験(13時~16時)

場 所：定山溪国有林&定山溪温泉鹿の湯本館

会 費：忘年会(18時~)は8,500円(90分飲み放題)

(当日宿にて集金します)

部屋の冷蔵庫(半額料金)&電話料金は各部屋で精算して下さい。

参加人員：20人

ホームページアドレスのお知らせ

アラタのホームページに当協会の専用ページがあります。

<http://www.aratanet.com> にアクセス 「森林ボランティア募集」をクリック

森林レンジャー素案

1 所属

北海道森林ボランティア協会の啓発チームに所属

2 活動内容

A 森林の監視

天然災害

森林火災、噴火災害跡地 強風被害 雪害 干ばつ 洪水

病虫害

含む動物被害

人的問題

放置林 裸地放置 不適切土地利用 盗伐 外来種浸入

B 保全活動

問題が大きければ北海道森林ボランティア協会の森林保全活動で解決する。

C 啓蒙活動

入林者に対する指導

植林 保全の啓蒙

ジュニアレンジャーの育成

3 活動範囲

全ての土地。海外の被害情報も監視する。

4 レンジャー認定

2年間の訓練期間を経て2005年より認定する。

協会のレンジャー講座を受講し保全活動で技術練磨した者。

年齢、森林林業経験は全く問わない。

レンジャー講座

- | | | |
|------------|--------|--------|
| 1 弱っている森林 | (森林保全) | ボランティア |
| 2 札幌の里山の樹木 | (森林生態) | 斜面崩壊 |
| 3 温暖化と森林利用 | (森林利用) | 森林施業 |

レンジャー技術訓練

- | | |
|---------|--------------|
| 1 生態 | 森林の動植物 |
| 2 植林 育林 | 植林 下刈り 除伐 間伐 |
| 3 利用 | 造材 特用林産 |

「哲学の村・ふくろうの森」見聞記

北海道森林ボランティア協会代表幹事・農学博士 湊 克之

10月の末、未だ紅葉の名残が残る当別町にある「哲学の村・ふくろうの森」を持ち主の石島さんの案内で見せていただいた。

その森は第四紀段丘堆積層と思われる平坦な地形で、林相は畑地として開墾された、その後放置された場所に植えられた30年生のトドマツ造林地、未開墾部の原始的石狩原野を髣髴させる広葉樹二次林、進入したシラカンバを主とした天然更新地、表土を剥いだ跡地に繁茂したススキが群状に点在する約10ha(3万坪)の広がりを持っている。入り口には、10年前に石島さんが心血を注いで建てた5坪程度の本格的なログハウスがあり、少し手入れする事により快適な作業拠点となる。

石島さんは、この森を子供達には木製機関車や樹冠小屋を備えた冒険の場に、若者にとっては森林を体験する場に、熟年には豊かな森林を創る実験にと、ロマンを情熱的に語ってくれた。この熱き思いに、私が所属する60名のボランティア会員を擁する「北海道森林ボランティア協会」と、非常勤講師を勤める「札幌工科専門学校」の緑地専攻の学生とで、どの面で協力できるかを考えてみた。

「北海道森林ボランティア協会」ができる事は、まず森林の整備と林産物の利用であろう。

森林の整備として、①トドマツ造林地の間伐、②歩道の整備、③無立木地へのミズナラ(どんぐり)クルミ、サクラ等花果木の造林であろう。また、林産物の利用として、①間伐材の伐採→皮剥ぎ→乾燥を経て「子供の夢を育む遊戯木」の生産、②きのご栽培、製炭、薪材、落ち葉肥料等の生産があげられる。このための労力や技術はボランティアが担うとしても、交通費、機械・器具、油脂類等には応分の費用を要する。この費用捻出も課題となる。

「札幌工科専門学校」学生は、次代の森林管理を担う技術者養成のため、経理、育林、土木、資源利用の実習の場としての利用である。これには、この森林を「学校林」として位置付け、利活用したい。このように、作文コンクール受賞作・菅原紗也香ちゃんの「積み木の汽車ポップ」の夢も膨らむ森の具現を目指したい。

森林整備に、人工林の間伐をあげた。「木を伐る」ことは「悪」と感じている一般の人が多い。天然林は、自然淘汰の原則で木を切らなくても何とかなる。しかし、人工林は間伐(野菜栽培の間引きと同じ)を前提として、一町部当り3千本から1万本の苗木を植え、間伐を繰り返して、最終的には千本前後の良質木を生産する技術が確立している。我が国は「安価な外国産木材」の輸入により間伐材生産が経営的に成り立たず、半分近くの森林が放置されている。外国では木を伐る事により森林破壊の誘発が懸念させるが、我が国では木を伐れない(間伐)事により森林機能劣化を誘発している現実を知ってほしい。

間伐遅れは、良質材の生産を阻害し、森林内への陽光不足により水源涵養に必要な森林土壌を悪化させ、森林の公益的機能も損なっている。日本の山は、木を伐りたくても、伐れないため荒れている。

以上

筆者プロフィール：1961年北大林学科卒業後、1999年まで北大で教鞭、
退官後札幌工科専門学校の非常勤講師(専門：森林利用学)